



アイヌ文化のことをもっともっと話したい！
本田優子と村木美幸の二人が、その魅力を交代で
執筆するソンコ(=お便り)形式のエッセイです。

コタンノミ(村の祈り)

村木美幸(アイヌ民族文化財団副理事長)

〇二年四月にスタートした「ソンコ de ソンコ」の記念すべき初回のテーマ「シリバイカラ(春がきた)」でも紹介した「コタンノミ」についてもう少し掘り下げてみたいと思います。

私が勤める民族共生象徴空間(ウポポイ)の前身である旧アイヌ民族博物館では、二〇〇二年から儀礼伝承活動のひとつとして「コタンノミ」を実施してきました。かつては、北海道やサハリンの各コタン(村)でサクパ(夏の年)の始まりである春と、マタバ(冬の年)の始まりである秋に行われ、大祭であるイヨマンテ(クマの霊送り)と同じように村をあげて行うカムイノミ(神々への祈り)でした。春には、これから迎える夏の年に自然の恵みがあるよう豊漁(豊猟)、豊作を祈願し、皆が健康で病気なども流行らず無事に暮らせるようにと安全を祈願し、秋には、夏の恵みや庇護への感謝と、次の冬も豊かで、健やかに暮らせるようにと祈ります。また、酒を造る大祭にはシンヌラップ(先祖供養)も行つほか、近隣のコタンの人々も招待することから交流の場としての役割もありました。

白老では、コタンエイノソノイタク(村について祈る)



イラスト/山丸ケニ

ヤトウバエカムイノミ(幣場で神に祈る)とも呼ばれ、春秋の他に疫病などの病気が流行る際にも行われたといえます。儀礼の開催や式次第、役割分担が決まると、コタンの家々を回つて干魚や米、ヒエ、アワ、麴、タバコなどの供物を集め、酒を醸し、料理や団子がつくられます。カムイへの土産となるイナウ(木幣)の材となるエンジュやミズキなどを採取し、家の祭壇に祀られる複数のカムイの他、浜辺につくられるコタンの共同の送り場、チバ(幣棚)などの新しいイナウが準備されます。

現在、ウポポイで「コタンノミ」を実施していますが、残念ながら来園者の皆さまには非公開です。火の神への拝礼で始まり、病魔除けのハルエオンカミ(食料による祈り)やシリリエオンカミ(酒粕による祈り)、火の神や家の守り神など祭壇に祀られる神々への祈り、シンヌラップなど祈りだけで三〜四時間はかかるので、プログラムとしての時間の長さ、アイヌ語での祈りや儀礼の所作をどのように紹介するかなど課題は満載ですが、近い将来に向けてアイヌの精神世界を体感できるプログラムとなるよう準備、検討を重ねておりますので、楽しみに待っていてくださいね。



次回のテーマは「アイヌラックル」
本田優子(札幌大学教授)が担当します。



ウポポイ

NATIONAL AINU MUSEUM and PARK
民族共生象徴空間

JR白老駅から徒歩約10分



ウポポイPRキャラクター
「トラレツボン」



イランカラテ
「こんにちほ」からはじめよう。

■本田優子(ほんだゆうこ):金沢市生まれ。札幌大学教授。北大卒業後11年間平取町二風谷に住み、アイヌ語講師を務める。
■村木美幸(むらきみゆき):白老町生まれ。アイヌ民族文化財団副理事長。先住民族アイヌの一員として文化継承活動に努める。
■山丸ケニ(やままるけに):白老町生まれ。アイヌ民族文化財団職員。ウポポイでアイヌ語体験プログラムを担当する。